

平成19年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ウマヅラハギ

学名 *Thamnaconus modestus*

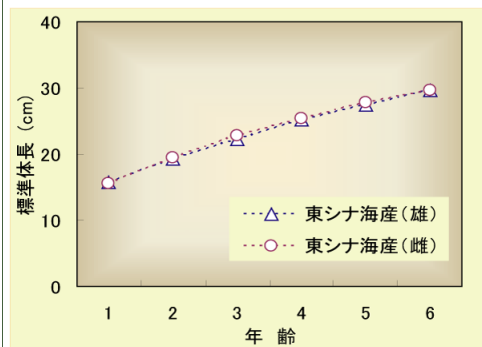
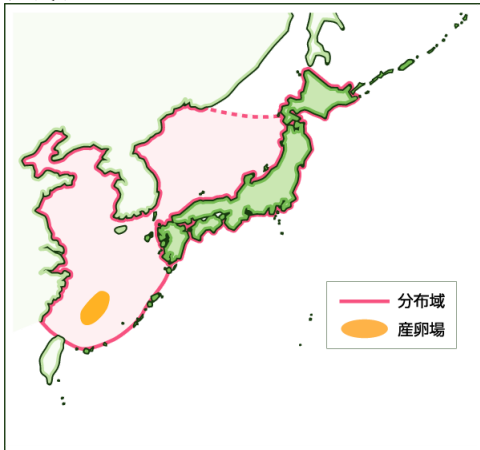
系群名 日本海・東シナ海系群

担当水研 西海区水産研究所



生物学的特性

寿命: 10歳
成熟開始年齢: 1歳
産卵期・産卵場: 5～7月、魚釣島周辺海域、日本・中国・韓国の沿岸
索餌期・索餌場: 8月～翌4月、東シナ海・日本海の沖合域、日本・中国・韓国の沿岸
食性: カイアシ類、ヒドロ虫類、端脚類、オキアミ類、珪藻類、紅藻類
捕食者: 不明

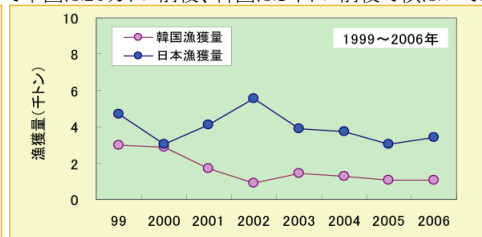
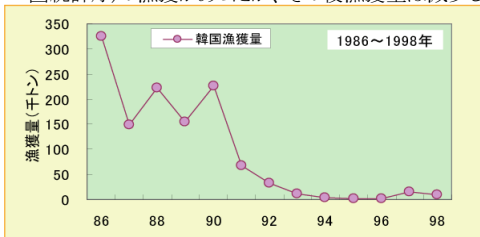


漁業の特徴

主に我が国の沿岸域で定置網やごち網等によって漁獲される。

漁獲の動向

我が国では1960年代後半から各地に多量に出現するようになったとされる。近年の漁獲量はやや減少傾向にあり2006年の我が国沿岸域(九州西岸～日本海北部沿岸)と東シナ海での漁獲量は3千トン程度と推定される。東シナ海において最盛期(1986年)にはカワハギ類として中国が40万トン(FAO)、韓国が30万トン以上(「漁業生産統計」韓国統計庁)の漁獲があったが、その後漁獲量は減少して中国は20万トン前後、韓国は1千トン前後で横ばいである。



資源評価法

漁獲量の情報を収集し、経年変動傾向を検討した。また参考として東シナ海の沖合において着底トロールによる漁獲試験を行い、現存量を評価した(夏季2000～2006年5～6月、冬季2000～2001年1～2月、2003～2006年2～3月)。

資源状態

我が国の漁獲量は、水準は不明だが動向はやや減少傾向にある。東シナ海の漁獲の主体をなす中国のカワハギ類の漁獲量は、1980年代の半分程度で動向は横ばいであるが、本種の近似種の混獲割合が不明である。本種の比率が高いと考えられる韓国のカワハギ類の漁獲量は、最盛期(1980年代)と比べて減少が著しく、動向は横ばいである。以上のことを勘案して、水準は低位、動向は横ばいと判断した。

管理方策

資源が低位水準であることから漁獲量を削減することが必要であるが、動向が横ばいであること、我が国沿岸の漁業が資源に与える影響の程度が不明であること、及び我が国の漁業の主体となる定置網漁業が本種を積極的に漁獲する漁法でないことから、現状の漁獲量をやや削減して様子を見ることが適当と考えられる。

	2008年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	3,100トン	0.9Cave3-yr	—	—
ABCtarget	2,500トン	0.8・0.9Cave3-yr	—	—

- ABCおよび漁獲量には沖合底びき網漁業の漁獲量を含めていない

資源評価のまとめ

- 我が国の漁獲量はやや減少傾向
- 中国のカワハギ類の漁獲量は最盛期の半分程度で動向は横ばい
- 韓国のカワハギ類の漁獲量は低位水準で動向は横ばい

管理方策のまとめ

- 現状の漁獲量をやや削減して様子を見ることが適当



資源評価は毎年更新されます。